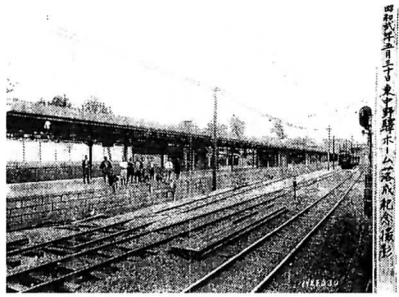


レールの生涯

戦前戦後を通し戦禍にも遭わず今なお厳然として、日々利用者の安全を見守っている建造物があります。それは東中野駅のホーム。駅舎やホームの延長部分はその都度建造されましたが、ホームの中央部の建物は昭和2年駅舎新築時のもので、その柱は鉄道のレールで造られています。

何の変てつもないレールですがそのルーツを調べるのも興味ある事実です。長い年月を経た為、腐食や損傷ではつきりと読み取れないものもありますが、19世紀末から20世紀初期の物が使われているのが、かすかな数字から読み取れます。当時、レールはドイツ、ベルギー、米国と外国製で、はるばると船で明治維新の偉業を遂げ、文明開化の道を歩む極東の一小国日本に陸揚げされました。それ以来今日まで、このレールが果たした役割、また歴史を思うと万感胸に迫ります。現在の新幹線のレールとは比較になりませんが、当時としては汽車は最高の乗り物。時代は変わりカラフルなスピードのある今の電車、列車を、ホームの柱になった一本のレール、その走り去る姿をどう見ているのでしょうか。。。



東中野駅ホーム落成記念写真
(昭和2年5月30日)
写真提供 JR東中野駅